

大杉小学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

大杉小学校長 浅野 努
コーディネーター 池田 政弘

2 ボランティア登録数（令和5年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	34人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
登下校見守り	週5回（土曜授業日も）	5人
環境ボランティア	年4回の学校花壇の手入れ	7人
読み聞かせボランティア	年8回、朝読書の時間の読み聞かせ	22名



登校時の見守り活動



年8回の読み聞かせ活動

4 今年度の成果と課題

<成 果>

制限・制約のあるコロナ禍においても、毎日子供たちにとって安全・安心な環境づくりのために、ご尽力いただいたことが、何よりの成果といえる。こうした方々の活動に支えられて、今年度も安心して教育活動に取り組むことができた。

登下校の見守り時には、子供たちが直接感謝の気持ちを素直に言葉で伝えていることも、教育的な価値があるとともに、学校応援団の皆様にとっての喜びにつながっているとのもので、嬉しい限りである。

学校のよりよい環境づくりという視点においても、環境ボランティアにより、1年を通して、玄関や校庭の花壇を季節感のある花で満たしていただき、情操教育の一助として、大いに役立っている。

読み聞かせボランティアによる読み聞かせのおかげで、子供たちの読書への興味・関心が深まり、毎回の読み聞かせの時間をとても楽しみにしている子が増えている。

こうした子供たちの笑顔や感謝の気持ちが見られたことも、大きな成果といえる。

<課 題>

活動の内容によっては、より多くの方の御協力をいただくことやこれまで数年取り組んできたことが、効率的に、また、よりよいものとして子供たちのため、学校のためにつながるような活動となるよう計画を見直していくこと。さらには、新たな人材の確保や育成もふくめた活動となるような場も設定していくこと。これまでの日常的な取り組みが可能となったときには、新たな価値観や新しい視点で、本活動が継続して引き継がれるようにしていく。子供たちのことばや手紙により、感謝の気持ちを伝える機会を教育計画に位置付け、取り組んでいく（勤労感謝集会など）。

5 コーディネーターより

昨年度までのコロナ禍に比べ、学校行事の復活や日常的な活動が増えてきたことで、子供たちのために活動する機会が増し、嬉しく思う。運動会や学校公開などの行事を通して、学校へ足を運べたことは本当によかった。今後は、ボランティアをしていただける方の人員の拡大と新しい方への引継ぎについてすすめていきたい。

6 学校長より

学校応援団の皆様には、感謝しております。本校の子供たちが日ごろからいろいろな場面でたいへんお世話になり、本当にありがたく感謝しかありません。お力添えをいただくとともに、時として、貴重な御意見や御助言をいただけることも、校長としてたいへん嬉しく思っております。

今年度もコロナ禍の下ではありましたが、少しずつ本来の学校教育の姿を取り戻しつつある中、皆様は、学校にとって実に力強くありがたい存在と感じております。

今後とも、よりよい連携を図り、本校の教育活動ならびに子供たちの健やかな成長のために、御理解御協力をいただきますよう改めてお願い申し上げます。